能代北高跡地のワークショップニューズレター

これから、ここから。

From here and now

The former site of Noshirokita Senior High School and the future of Noshiro City

Vol.1

Newsletter

北高跡地の可能性を考える
ワークショップが始まりました！

アーカイブはこちらから
NPO法人アーツセンターあきた
#北高跡地利活用

能代北高跡地利活用の可能性を探るワークショップ

2014年3月に秋田県から能代市に譲与された能代北高跡地。更地となって７年、これまで複数の提案や意見があり、周辺の商店街を含めたつながりを考慮した検討が必要とされてきました。2020年度は秋田公立美術大学が利活用基礎調査を実施。恒常的な施設を建設することを想定し、地域の文化経済を底上げする新しい文化施設プログラムの提案と、仮設建築物を増改築することを想定し、中心市街地活性化に向けた機運を醸成する思考継続型プロジェクトの提案をしました。2021年度はこの検討成果に対する住民の意向把握やまちづくりへの関心を高めるため、利活用の可能性を検討するワークショップを開催します。ニューズレター Vol.1では第１回ワークショップを報告します。（企画・運営：秋田公立美術大学）

WS（ワークショップ）スケジュール

今年度は３回のWSや高校生対象のWSを通して、能代北高跡地のポテンシャルを引き出す実験的なプロジェクトを具体的に考えていきます。WSの内容は、能代市役所のウェブサイトやニューズレターにて随時ご報告いたします。

第１回 WS：2021年10月17日（日）13:00〜16:00
第２回 WS：2021年11月28日（日）13:00〜16:00
第３回 WS：2022年 1月16日（日）13:00〜16:00

北高跡地利活用に関する能代市のウェブサイトはこちら

第１回 ワークショップ

日時：2021年10月17日（日）13:00〜16:00
場所：能代市役所 会議室9・10ほか

プログラム

- 事業・ワークショップについて
- 基礎調査報告１（スタートブックから）
- ワーク１ 北高跡地に期待することは？
- 基礎調査報告２（スタートブックから）
- 休憩・移動
- 自己紹介シート記入
- ワーク２ 北高跡地の機能を複合的に考える
- 成果発表

鈴木浩文（能代市企画部次長）

北高跡地は「点」ではなく、能代市全体の活性化につながる重要事案

鈴木：本日はワークショップにご参加いただき、誠にありがとうございます。北高跡地の利活用についてはこれまで検討されてはきましたが、なかなか方向性が定まらないというのが正直なところです。現在「６の市」などで暫定的に利用されていますが、いずれは普遍的な活用にシフトすべきという立場から検討を深めていった結果、昨年、秋田公立美術大学に依頼して利活用基礎調査を実施しました。報告書のなかで今後の進め方として、思考継続型の手法を提案されたところです。北高跡地の利活用に関してはアンケートレベルではなく、幅広い分野、世代から直接的な意見を聞きながら進めていくべきとの考え方を持っています。新型コロナウィルスの影響等によって地域の活力が低下しつつありますが、今後まちづくりを止めるわけにはいかないことから、こうした重要課題については市民と一緒になって進めていくべきと考えています。
北高跡地は決して「点」ではなく、中心市街地活性化、市全体の活性化につながる重要事案であると考えています。市全体でまちづくりを進めていくなかでこの取り組みが第一歩となること、そして市民、地域全体の力を発揮すべき、よき場となることを願っています。

時間をかけて思考を継続し、アップデートしていくための第一歩

小杉：秋田公立美術大学景観デザイン専攻の小杉です。大学での研究活動と並行して、建築家としての仕事もしています。能代市では、都市における空きスペースの今後の可能性を探る実証実験として、畠町の旧鴻文堂の店舗を若い人たちのためのスペースへとつくり変えるプロジェクトをここ数年続けています。その経緯で能代市とのつながりができ、北高跡地という場所があることを知りました。市はポテンシャルのある重要な土地だと捉えていて、今後の利活用についてとその取り組み方について相談を受けました。その際に、一般的には民間の建設コンサルタント会社が建物をつくる前提で基礎調査をするのがオーソドックスだが、もし大学が基礎調査をするのであれば、それとは違う場所・空間づくりのためのお手伝いができるのではないかと伝えました。こうした経緯で昨年度、大学に基礎調査業務を委託していただき、この土地をどのように活かせるかについてゼロベースで調査してきました。
能代市の関連計画を踏まえて基礎調査を進めていくなかで、今までの公共施設の計画の仕方よりはスピードを落として、中心市街地の今後の在り方とセットでじっくり

小杉栄次郎（秋田公立美術大学教授）

考えていくべきではないかという考えが大きくなっていきました。そこで、みんなで継続的に考えながら、より良いものに時間をかけてアップデートしていく計画のつくり方を提案させていただきました。能代市もその考えをまずは受け入れてくださるということになり、今年度、思考継続型プロジェクトの第一歩を進めることになりました。

今回お配りしたスタートブックをとっかかりとして、皆さんと一緒につくり上げていくようなワークショップを重ねていければと思います。新しくて可能性のあるものにはわくわくしますし、そういう雰囲気の場からしか良いものは生まれないとも思います。楽しく作業していきましょう。

井上宗則（秋田公立美術大学准教授）

北高跡地の存在そのものが、能代のまちづくりにとって重要なポジションになる

井上：基礎調査業務では、すでに策定されている計画のなかに北高跡地がどう位置づけられているかを整理しました。総合計画には北高跡地の利活用を点としてではなく面として考えようと明記されています。また、われわれにとってインパクトが大きかったのが、能代市公共施設等管理計画にあった「2047年までに公共施設の延床面積を35％削減する必要がある」という報告でした。何か施設を建てるにしても相当な議論、検討を重ねなければならない現状のなか、北高跡地のポテンシャルとは何か、さまざまな視点から調べていきました。
列挙すると、地質的には風の松原と同じく砂であること、かつては能代の入り口ともいえるゲート部分に位置していたこと、東側にメインのアクセス路があったこと、周辺より高地にあり、まちのランドマークになるようなポテンシャルがあること。また厳しい法的な規制はなく、

能代北高跡地利活用スタートブック／2021
「これから、ここから。」

北高跡地の歴史的背景や基本コンセプトの検討、各地の取り組み事例、思考継続型プロジェクトの提案などで構成。専門家を交えた座談会やプロジェクトメンバーによるクロストークを盛り込み、具体化の検討に向けたガイドブックとなるよう編集しました。能代のまち並みや北高跡地の現在の写真、ドローンを飛ばして上空から撮影した写真なども見どころです。ワークショップにはぜひ毎回お持ちください！

スタートブックについての詳細はこちらから

建てようと思えば床面積75,000㎡ぐらいの巨大な建物さえ建てることができます。言い換えれば、建物を計画する場合は、将来に渡って維持管理が可能な、この場所にふさわしい規模をしっかり議論することが必要です。北高跡地はまちづくりにとって非常に重要なポジションにあり、そのポテンシャルを最大限活かすには、ひとつの方向性に絞って検討を深めるのではなく、さまざまな実験的な利活用を行いながら議論を蓄積していくことが有効なのではないかと考え、思考継続型プロジェクトを提案しました。

グラレコをPDFでご覧いただけます。

意見交換を続け、実験しながら議論を蓄積していく

2021年度のワークショップでは、北高跡地の利活用について創造的な意見交換を行う「ワークショップ」と、ワークショップで出たアイデアを専門的な視点から検証する「技術的検討」を繰り返し、実施可能な「プロジェクト」を考えていきます。

◀ 2021年（令和３年）度以降の検討イメージ

平元美沙緒さん（グラフィックレコーダー）

実験しながら、議論しながら、継続していくプロジェクト

基礎調査報告書では、公共施設の延床面積を35％削減していかなければならない現状において何ができるかを考え、北高跡地の可能性として２つのケースを挙げました。

小杉：これだけポテンシャルのある土地なので物事を早急に決めず、公共施設の計画の仕方自体を見直そうと提案したのが「**Case 2 思考継続型プロジェクト**」でした。公共的な施設の前段階として、仮設建築物を設置するなどして実験し、時には失敗しながら、増改築しながら思考し続けることを目指したインキュベーション施設です。今すぐに決定せず時間をかけるのは、新しい交通体系の検討やバス交通の在り方が今、過渡期にあること、さらに多世代交流の場と考えた時に子どもたちの意見を取り入れていくことが必要だと考えたからです。例えば10年というタイムスパンを設定して、思考を継続しながらまちに必要な空間を計画していくほうが、結果的に長い時間、本当に必要とされる場所になるだろうと提案いたしました。時間をかけて議論を積み重ね、皆さんと一緒につくっていけたらと思います。

Case 1 ｜ 恒常的な施設を建設する

地域の文化経済を底上げする新しい公共文化施設プログラムとして、リカレント教育を絡めた更新可能な博物館的施設の提案

Case 2 ｜ 一定期間、仮設建築物を設置し、検討しながら施設を増改築する

中心市街地の活性化に向けた機運を醸成する思考継続型プロジェクトとして、思考し続けることを目的としたIncubation施設（孵化装置）の提案

ワーク１

［ 北高跡地に期待することは？ ］

議論を積み重ねていく第一歩として、参加者には中心市街地活性化計画（平成31年）と同じアンケートに答えていただきました。

アンケート結果

- **イベント広場・市民の交流の場・子どもの遊び場｜6票**
- **美術館等の教育文化施設｜4票**
- **市民団体、サークル活動スペース｜1票**
- **各種スポーツ施設｜1票**
- **観光物産施設｜1票**
- **起業支援施設｜1票**
- **その他（災害対策、防災拠点のようなもの）｜1票**

ワーク２

［ 北高跡地の機能を複合的に考える ］

ワーク１の集計結果をもとに「期待する機能」がかぶらない人同士となるようグループ分けを行い、ワーク２では新しい施設の在り方を想像しながら複合的な機能を持った施設について考えました。

各自が期待する機能をテーブルに並べ、どうしたら共存できるかを考えてみます。従来の施設の内容に捉われる必要はありません。未来を考え、さまざまな機能が複合していく空間や場で人との関わりができていく。そういった新しい施設の在り方を想像してみたいと思います。

B1 グループ

歴史を学べる施設をつくること。イベントやワークショップを行う場所をつくること。医療をメインとした施設をつくること。大きな公園にスポーツの場をつくること。この４つの機能案が出たのですが、どう複合していくかは２つに分けて考えました。

❶ 歴史文化施設×イベントやワークショップ

能代市には美術館や歴史文化を伝える施設がないことから、歴史資料館等を建築する必要性があると考えた。木都らしく木材を全体的に使用し、能代を象徴する建物に。歴史を紹介する展示をしたり、学芸員が小学校でイベントをするなど子どもの学びともなるプログラムを行うのもいい。ワークショップスペースでは木工体験ができ、木材でおもちゃをつくって持ち帰られるようにすれば観光の面でも木都を主張できるのではないか。

❷ 医療×公園

老朽化が進んでいる病院を移転し、医療施設と公園に。思いっきり体を動かせる大きな公園とし、3on3バスケットコートなどのスポーツコートやリハビリを兼ねたウォーキングスペース、病院に来た人と公園に来た人がご飯を食べることができるカフェスペースなども併設。公園には広いスペースがあるので防災救助の観点からヘリポートを置くという意見や、男子バスケだけでなく女子バスケチームも盛り上げていってはという意見も。

B2 グループ

美術館等の教育施設、**オフィス**、**イベント広場**、**商業施設**、**市民活動**の拠点となる施設の5つについて考えました。能代には歴史や伝統文化を紹介したり学んだりできる場がないことから、能代の伝統行事である役七夕や天空の不夜城などの地域行事が見られ、いつでも笛や太鼓が体験できるスペースがあればいいという意見がありました。カルチャースクールやイベントなど季節に関係なく開催できて交流できるスペースが欲しいという意見も出ました。また、能代にはJAXAの研究所や秋田県立大学の木材高度加工研究所があるので、県外からもアクセスしやすい企業×研究の拠点をつくってはどうか。また、コールセンター誘致についての意見もありました。その他、能代では６次産業を頑張っているのでミョウガや山ウドといった特産品を販売するなど食のイベントが開催できるスペースもあればいいという意見がありました。

C1 グループ

「**能代の小さなまち**」をキャッチフレーズとして話し合いました。スポーツ施設では例えば卓球の施設。それにプラスしてライブや映画上映などいろいろ活用できるイベント広場をつくれば若い人が来やすく、人が集まりやすい場所になるのではないかと思いました。また、企業支援という視点からは、北高跡地の階段脇の空間を活かしていろいろなお店があると入り口として印象がいい。駐輪場もあるといい。例えばコンテナを設置してそこに出店してもらったり、宿泊施設としてコンテナを活用したり、高台にあることを活かして遠くからでも見え、注目してもらうことで人が集まる仕かけをつくってはどうかという意見が出ました。道路を自転車も通りやすい広さとすることで中高生なども立ち寄り、駅から徒歩圏内なので観光客も立ち寄れる**“小さなまち”**となるような複合的な施設を考えました。

C2 グループ

能代で一番求められているものは何なのかを考えた時に、心の拠点が挙げられました。能代の歴史を学べる場所がない、能代を誇れるようなところがないという意見。また、能代の人が生き生き暮らせる場所であること、高齢者の暮らし、観光物産PRがうまくできていないという意見もあり、大きく分けて**❶自然と防災対策**、**❷大きな建物**、**❸団体**が挙げられました。

❶北高跡地の土地を松原に戻す。松原に戻して、セントラルパークのように人がたくさん集まれて、食べ物もあり、イベント広場にもなる場所であればいい。また、能代には防災拠点がないので、ここが拠点としての機能を持つことができればという意見も。

❷能代で一番高い建物があればいい。北高の4階からは能代が見渡せたがそれがなくなってしまった。高い建物があれば人が集まるし、能代が見渡せるので子どもたちにも能代全体を説明できる良い場所になるのではないか。

❸能代は人口が少ないわりには団体がしっかり存在している。それぞれがつながる場所がないのが現状。分野に関わらず団体同士がつながれる拠点になればいい。

ワーク２で各グループがまとめた内容をPDFでご覧いただけます。

継続的な議論とその記録をまちの財産にしていきたい

井上：同じ敷地であっても議論をしていくとさまざまな利活用の方向性が出てきて、多くの発見がありました。北高跡地だけではなく能代市全体のことを考えた意見もあり、今回出された意見そのものが能代にとって大切な財産だと思います。しっかり記録し、アーカイブしながら広く議論を続けていきたいと思います。

ワーク２のグラレコをPDFでご覧いただけます。

具体的な土地利用を前提に、既成概念にとらわれずに

小杉：初回なのでアイスブレイク的にいろいろな可能性を膨らませるための第一歩でした。具体的な空間をイメージして発表したグループもあって面白いなと思って聞いていました。能代全体のことに思考が及んでいたと思いますが、長い時間をかけるのであれば「敷地の外を変えたらどうなるの？」ということにも広げていけるといいのかなと思います。具体的に土地を利用することを前提に、既成概念にとらわれず考えていきましょう。能代にはいろいろな団体が活動していますがあまり横のつながりが見えないという意見も聞きました。このWSからつながりが生まれるといいのかなとも思います。われわれも並走して、いろいろな方と会話できるような仕組みも含めて考えていきたいと思います。

次回のご案内

第２回ワークショップ

日時：2021年11月28日（日）13:00〜16:00
場所：能代市役所 会議室９・10ほか

高校生ワークショップ

日時：2021年12月9日（木）13:00〜15:00
場所：能代松陽高等学校

各ワークショップのお問い合わせ先：
NPO法人アーツセンターあきた ☎ 018-888-8137

プロジェクトメンバー
小杉栄次郎（秋田公立美術大学景観デザイン専攻）
井上宗則（秋田公立美術大学景観デザイン専攻）
船山哲郎（秋田公立美術大学景観デザイン専攻）
田村剛（NPO法人アーツセンターあきた）

能代北高跡地のワークショップ
ニューズレター「これから、ここから。」 Vol.1
2021年11月発行
発行　公立大学法人 秋田公立美術大学
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3
TEL.018-888-8100
※能代北高跡地利活用可能性検討業務の一部として作成しています。

デザイン：越後谷洋徳　写真：伊藤靖史　編集：高橋ともみ
制作：NPO法人アーツセンターあきた